学園報　皇學館　第27号

発行・編集
学校法人皇學館（総務課）　TEL0596・22・6308
伊勢学舎［法人本部・大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部］
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201㈹　FAX0596・27・1704
名張学舎［大学院・社会福祉学部］
〒518-0498 三重県名張市春日丘７番町１番地
TEL0595・61・3351㈹　FAX0595・61・3350
高等学校・中学校　三重県伊勢市楠部町138
【高校】〒516-8577　TEL0596・22・0205㈹
【中学】〒516-8588　TEL0596・23・1398㈹

●今号の注目記事

1面
河南師範大学と学術交流協定を締結
2面
上杉千郷常任顧問に最後の別れ
4・5面　学生責任編集ページ
先輩のお仕事拝見
6面　高校・中学
上位入賞者が続出
8面
第１回
皇學館大学特別講座を開催
女子柔道部
初の全国大会出場

●連載

2面
皇學館人物列伝⑧
廣池千九郎
3面
リレーエッセイ　私の学生時代
山田やす子（コミュニケーション学科教授）
7面
先輩、お元気ですか
秦　昌弘氏（四日市市立博物館 学芸員）

河南師範大学と学術交流協定を締結

相互の友好を深め教育・学術研究交流を促進することを目的に、本学は中国・河南師範大学（H22.6.8付）と学術交流協定を締結した。河南大学、中国社会科学院日本研究所に続き、中国では三つ目の協定機関となる。

調印式を終え、記念撮影する両学の代表団。

河南師範大学は、河南省新郷市に位置し、約八十年の歴史を有する総合大学だ。千七百名余りの教授陣のもと、約一万五千名の学生が学ぶ。主な学部として、外国語学部の他に教育学部、文学部、体育学部、法律学部や複数の芸術・理系の学部を有し、特に日本語学科は中国内では有数のレベル。教授陣も多彩な陣容を誇っている。

協定締結にあたり、本学からは半田美永学生部長、山田やす子コミュニケーション学科教授、張磊社会福祉学部教授、齋藤平国文学科准教授、松下道信国文学科講師、西谷豊事務局長らが六月八日に河南師範大学を訪問し、本学を代表して、半田学生部長が日本語および中国語の協定書に調印を行った。

半田学生部長と握手する焦河南師範大学学長（右）。

調印に先立ち、焦留成河南師範大学学長は、「過去二年間、各代表団が互いの大学を行き来し、友好な関係を築いてきた。すでに本学の卒業生数名が貴学で学んでいる実績もある。今回の協定締結にあたり、両大学の教職員・学生の交流がますます活発になることを願っている」と挨拶。

次いで半田学生部長が、「協定に基づき、今後積極的に研究者・学生の交流を推進していきたい。本学の発展のためには、優秀な日本語学科を持つ貴学との連携は必要不可欠だ。今後の交流の中で様々な課題が生じるかもしれないが、学生が決して不利益を被ることがなきよう連絡を密にしたい。両大学の絆がより強固になり、相互理解を通じて、日中友好親善につながることを期待したい」と述べた。

チュニジア大使が来学

茶道部が茶会でおもてなし

六月十五日、チュニジア共和国のヌルディーン・ハシェッド特命全権大使が来学し、茶道部が茶会でおもてなしするなど、学生との交流を楽しんだ。

当日はあいにくの雨模様だったが、午後三時四十分に到着した大使は佐古一洌理事長、伴五十嗣郎学長、西谷豊事務局長らの出迎えを受け、神道博物館・貴賓室にて対談。会談の中で大使は前日に伊勢神宮に訪れた際の印象を話し、「なぜこの地に建てられたのか、身体で理解することができた」と感想を述べた。また、若い世代が積極的に交流し互いを分かり合うことが世界平和につながると語り、本学とチュニジアの大学機関との交換留学なども将来的に実現したいと希望を話していた。

土産の夫婦岩の写真を手に記念撮影。

その後、大使は記念館の茶室へ移動。顧問である淺沼宗博特別招聘教授をはじめ、茶道部員五名によるもてなしを受けた。大使は終始リラックスした様子で、時にはジョークも交えながら学生たちの質問に答えていた。

茶会に参加した学生のひとり、国文学科一年の玉置沙由利さんはとても緊張したと言いながらも、「今まではチュニジアという国がどこにあるのさえ知らなかった。今日はその歴史や地理の特性を知ることができて有意義だった」と感想を述べた。神道学科一年の坂口智紀さんは大使が会話の中で明治時代の外交について大変優れていたと言及した点に触れ、「自国が誉められるのは嬉しい。〈外から見た日本〉を考えるいい機会にもなった」と話していた。

大使を囲んでの記念撮影。質問タイムではチュニジアの気候や特産品について学生が尋ねていた。

秋に八名の留学生が来学

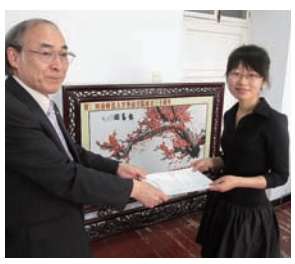
河南大学・河南師範大学で編入試験

河南師範大学との協定締結と合わせ、六月七日に河南大学、六月八日に河南師範大学で編入学試験を実施した。各大学において厳しい学内選考を通過した七名（河南大学）、八名（河南師範大学）の二年次修了予定者が受験。筆記試験、面接の結果、河南大学四名（国文学科三名、コミュニケーション学科一名）、河南師範大学四名（国文学科二名、コミュニケーション学科二名）の計八名の学生が本年秋学期より新たに本学の門をくぐることになった。八名の学生は三年次に編入し、独自のカリキュラムのもと、二年間を伊勢の地で学び、両大学からそれぞれの学位（学士）が与えられる。

筆記試験を受ける受験生（河南大学）。

合格した河南師範大学の史淑明さんは、「日本の原点の一つでもある伊勢の地で学ぶことができ、大変嬉しい。日本語の上達はもとより、日本の歴史・文化を学び、日中友好のために貢献できるよう頑張りたい。将来は、通訳の職をめざしたい」と抱負を語った。

試験官を担当した山田やす子コミュニケーション学科教授は、「非常にハイレベルな受験生が揃い、選抜に苦慮した。特に今回、初めての受け入れとなる河南師範大学の日本語レベルは相当高い。来日後、河南大学の学生と切磋琢磨することで、互いの活性化につながるだろう」と感想を述べた。


半田学生部長より合格通知を授与される史淑明さん（河南師範大学）。

倉田山春秋

私たちの学園は、信頼を絆にした教育の場である。「全学一体」は学園の理念を表象する言葉として、今、なお新鮮である。世界を構成する一人ひとりの個性。衝突と緩和。そして、理解と向上。『荘子』を出典とする〈莫逆の友〉とは、親密な友人を指すが、そのような友人を得るためには、真剣な議論と、共に汗を流す時間が不可欠だろう▼二年の歳月を経て、中国河南師範大学との学術交流協定の締結が実現した。河南大学に次ぐ協定校となる。六月には、この二つの大学で本学三年生への編入試験が実施された。選抜された八名の留学生が、秋学期より本学で学ぶようになる。彼らが皇學館大学の卒業証書を手にするまで、厳しく、そして温かく見守りたい▼万博で賑わう上海で、小雨の魯迅公園を訪ねた。彼は日本で医学を学んだが、後に中国近現代文学を代表する人物となる。代表作「故郷」は、〈其実地上本没有路、走的人多了、也便成了路〉で閉じられる。〈実は地上にはもともと道は無い。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ〉。学園の将来に、留学生の希望を重ねてみる。世界の中の日本を考える為にも。

上杉千郷常任顧問に最後の別れ

岐阜県高山市で葬儀・告別式

六月三十日に八十七歳で死去した本法人常任顧問・上杉千郷氏の葬儀・告別式が七月三日、高山市の松想苑で行われた。

神宮皇學館大學附属専門部、國學院大學文学部史学科を卒業された上杉氏は法務大臣秘書官や郵政大臣秘書官を歴任。昭和五十七年には国の重要無形文化財に指定されている祭礼「長崎くんち」で知られる鎮西大社諏訪神社の宮司に就任した。被爆地の宗教者が宗派を超えて世界平和を願う長崎県宗教者懇話会の会長も務めるなど、平和活動に積極的に取り組んでいたことでも知られる。

平成十三年八月から平成二十年八月まで学校法人皇學館の理事長を務め、本法人の発展に多大に寄与した。

告別式には温厚誠実な故人の遺徳を偲び、神社界や教育界など各界から約五百人が参列。その功績を讃え、別れを惜しんだ。

なお、故人を偲ぶ会が八月三十日㈪正午より熱田神宮会館(名古屋市)で開催される。

弔辞

上杉千郷先生の御霊前に謹んで申し上げます。

先生は飛騨古川累代社家の御長男としてお生まれになり、若くして聡明青雲の志高く 伊勢、神宮皇學館大學に学ばれました。時あたかも大東亜戦争の最中、学徒出陣して海軍航空隊士官、特攻待機中に終戦を迎えられたのであります。

戦後、政府各秘書官を経て後、本格的に神社界に身を投ぜられ、岐阜県神社庁副庁長・長崎鎮西大社諏訪神社宮司・神社新報社取締役・長崎県神社庁長等々の要職を御歴任、平成十三年八月 学校法人皇學館理事長に御就任なさいました。

省みますに先生の御事績は神職のみならず実に多岐広範に亘り、その精力的な御活躍には余人の追随を許さぬものがあります。

先生の行動の源は奈辺にあったのでありましょうか。

玉書『飛騨神主の笏紙』の中でかく述べられております。

終戦の報は、前戦基地で特攻待機中に聞いた。

その涙は、「戦争が終ったんだ」という実感と、出撃した同期生への「申し訳なさ」であった。その負い目は私の生涯を通して心に残っている。それとその後の人生を「お釣りの人生」との考え方、それが何としても心の隅を離れない。

この捨身・無欲・無私の信念加えて清明心こそ神の御意思のままに生きられた八十七年の御生涯であったかと拝察致します。

理事長として我が皇學館に御在任七年余の間、大学の施設・設備の整備に格段の力を濯がれ、〝建学の精神〟の具現化に寄与なさいました御功績は誠に大なるものがあります。

先生が御退任の折、全教職員の前で、忘れ得ない施設設備が三件あり。一つは戦没学徒顕彰碑、二つは祭式教室の改築、三つは大学記念館の移設改修であると。もとよりその他大学キャンパス内の拡張整備は大小十指に余るものがあります。いずれも母館の源流を継承し、本学教育の基盤を築き拡張するに足るものばかりであります。

先生は常々申されていました。皇學館はあくまでも神道大学である。神道精神に副った教育の実践こそが先人の意思を継承することであり、そうした独自性の発揮が唯一皇學館の発展の道である。

私共はその尊い御教え、お導きを身に体し、全身全霊をもって全学一体一丸となって邁進する覚悟であります。

思いますに先生は、常人に抜きんでて健筆・雄弁かつ実行の人でもあられました。その文章、御言葉、行ないの中に古来よりの神の道が厳然として存在し尽され、多くの人々に絶大な影響を与え給うたのであります。

又、先生の狛犬研究、蒐集は群を抜き大きな足跡を残されましたし、茶道の造詣殊の外深く、裏千家より茶名「宗郷」を授与されたと承ります。

本年三月十九日、自らの御発案で建立の記念館内「日月庵」にて、奥様と共に親しくお茶会を催されました。その折、神道・茶道一致を説かれつつの立居振舞は古武士の風格を思はせ、一同感服致した次第であります。

しかしこれが元気なお姿を拝し得た最後でもありました。此度の御逝去は本当に口惜しく残念でなりません。御冥福を心よりお祈り申し上げ、お別れの言葉とさせていただきます。

平成二十二年七月三日

学校法人皇學館理事長　佐古一洌

弔辞を奉読する佐古理事長。

名張学舎「週末あそび塾」をご存知ですか?

麻紐で竹をつなぎ合わせて…。どのようになっていくのだろう。

皇學館大学社会福祉学部地域福祉文化研究所は地域研究はもちろんですが、地域貢献その一つとして名張学舎「週末あそび塾」を開催しています。地域の子どもたちを名張学舎に呼んで、様々な体験活動を進めています。かれこれ七年目に入る事業です。

六月には大掛かりなプログラムを開催しました。「竹で基地を作ろう! スター☆ドームに挑戦」と題して、二十名を超える子どもたちとサポート学生が竹を組むことに挑戦しました。竹のささくれをナイフで削り落とし、麻紐で竹をつなぎ合わせ、そして組んでいきます。子どもたちも「何ができるのだろう?」という感覚でしたが、組み上げた竹を持ち上げて立体状にしていくと、子どもたちからも「おお~っ!」という歓声があがりました。見事な「スター☆ドーム」の完成です。どのようなものだと思いますか? 気になる方は是非名張学舎に来てください。十月二十二日からの皇名祭(こうみょうさい)まで、名張学舎の真ん中に建っています。

五月には子どもたちが薪でご飯を炊きました。七月はじめにはたくさんの子どもたちと学生が一緒に遊びました。七月十七日からは子どもたちが名張学舎の中で二泊三日のキャンプもします。名張学舎「週末あそび塾」の活動の一部を紹介しました。

地域福祉文化研究所所員　叶俊文

皇學館人物列伝 8

廣池千九郎

ひろいけ ちくろう

モラロジー(道徳科学)の提唱者

ひろいけ ちくろう◆大分県生。モラロジー(道徳科学)の提唱者であり、麗澤大学の創立者。歴史学者として多くの論文・書物を著し、早稲田大学講師、神宮皇學館教授などを歴任する。国家的事業である『古事類苑』の編纂に携わるとともに、「東洋法制史」という新しい学問分野を開拓・研究。独学で法学博士号を取得する。その後、道徳の科学的研究を深め、人類普遍の道徳原理を問う『道徳科学の論文』を著した。一八六六~一九三八。

『古事類苑』の編集員であった廣池千九郎は明治四十年、選ばれて神宮皇學館の教授として伊勢に赴任した。四十一歳のことであった。神道史などを担当した。

だが自分を省(かえり)みるとき、人に神の道の何かを教えられても、自分がその心の持ち主かといえば程遠いものを感じ、足元の掬われる思いになった。

廣池は尊敬する師を訪れ率直に尋ねた。

「神の慈愛を身につけるにはどうすれば」

師は、こう答えた。

「廣池さん、それは人を助ければ判ります」

まもなく廣池は二見の今一色で講話をした。「人生が順調に推移するには神の心になる。それが自然の摂理で進化の道…」と皇學館で語る内容であった。終わった時、戸板に乗った全身不随の女性が運ばれて来た。

「先生、この女(ひと)を助けてやって下さい」

神ならぬ廣池はどうすることも出来ず、思わず神に祈っていた。ややあって言った。

「病人が美しい心になること。恨み、欲、怒りなど自分中心の心をとり去ることだ。そのため、私は通わせてもらう」

それから三日にあけず今一色へ通った。神田久志本から神社(かみやしろ)へ。そして渡船で一キロ、計四キロの距離。当時はそれが最寄(もよ)コース。

ある日、天候が悪く時刻が来ても用意がない。不審に思って船頭に尋ねた。

「この天気ではのぉ…」

「定期便は規定では一人の客でも…」

しぶしぶ用意にかかった船頭は船上から網を外(はず)せなどと指示する。腹立ちを覚えつつ廣池はそれを外し投げた。乗せてやるとの不遜な態度にも怒りつつ促されるまま船中へ入る。客は一人だった。中程まで来た頃、なぜか廣池の心に反省の念が湧いた。自分は何しに行くのか。病人に人を責める心はなくせと……。自分の愚かさに気づいていた。「乗る時はすまなかった」と詫びていた。下船の時、船頭の様子も変わっていた。

病人は一年通う間に手足が動き、起きあがり、やがて立てるようになり、子守も出来た。

一番驚いたのは廣池自身だった。奇跡に思えた。その女性は人柄も変わり、昭和十三年まで三十年間も元気だった。

人間の心には凄い力が確かにある。それが動物―人―神との進化の道だ。心の純な働きこそ神の道だ。廣池にはそれが確認できる事件だった。廣池の人生は以来大きく変わった。

どうか皇學館の学生諸君も神社港に立ち今一色を望み、人間の真の教えを求め、真剣に神の道を探った本学の一教授を偲んでみてはいかがですか。

学校法人皇學館監事　山中隆雄

神社港の案内板。

珠玉の名曲が散りばめられたミュージカル
『サウンド・オブ・ミュージック』
（1965年・アメリカ／ロバートワイズ監督）

青空の下、丘の上でマリアがギターを抱え、とても澄んだ声で子供たちと「ドレミの歌」を歌う場面が忘れられない。ザルツブルグに行った時に、アメリカ映画でありながらこの地で撮影されたのを知った。有名な撮影場所を巡るバスツアー参加者は、アメリカ人と日本人が主で、オーストリア人は映画そのものを知らないという説明には驚いたものだった。実話を基にしたストーリーの見事な展開と珠玉の名曲が散りばめられたこのミュージカル映画は、私の一押しの名作である。

教育学科教授　錦かよ子

〝何のためにそれをしたかが大事〟
『剱岳（つるぎだけ） ―点の記―』
（2009年・日本／木村大作監督）

明治40年代陸軍が急務としていた日本地図の最後の空白地点剱岳に三角点を設置するため、初登頂を目指した陸軍参謀本部陸地測量部測量手　柴崎芳太郎とその仲間達の壮絶な物語。難事業遂行に伴う困難や苦悩を軸に、登場人物それぞれの人生の軌跡や葛藤克服が事業遂行への道標として描かれている。立山という信仰の山に対する心のありようや、「人がどう評価しようとも、何をしたかではなく、何のためにそれをしたかが大事です。悔いなくやり遂げることが大切だと思います」という、忘れてはならない警句に感動した。

神道博物館教授　岡田芳幸

厳然としてある、少年たちの世界
『少年時代』
（1990年・日本／篠田正浩監督）

夏と聞いて思い出す映画は、やはり『少年時代』だろうか。時は昭和19年、東京からやって来た疎開少年が過ごした日々を、少年たちの心の成長を通して描いている。夏がテーマではないが、ラストシーンで流れる井上陽水の歌声と相まって、なぜかひと夏の思い出を彷彿とさせる。時代の大きな渦の中でも、少年たちの世界は厳然としてあるのだ。その意味で、中国文革下の北京を舞台とした『太陽の少年』（1994年・中国／姜文監督）もおススメ。

国史学科講師　谷口裕信

時代を超えて支持される名作
『ウエスト・サイド物語』
（1961年・アメリカ／ロバート・ワイズ、ジェローム・ロビンス監督）

元はブロードウェイミュージカルで、現代版『ロミオとジュリエット』と呼ばれている。対立するジェット団とシャーク団それぞれに属していたトニーとマリアが出会って恋に落ちて悲しい結末を迎えるまでを描いた作品だが、わずか25時間ほどの間の出来事である。そのスピード感あふれるストーリー展開、レナード・バーンスタインの楽曲の美しさ、躍動感あふれるダンスシーンと、10代の頃初めて見た時の衝撃を今でもよく覚えている。

現代日本社会学科教授　筒井琢磨

夏　休　み　特　別　企　画
教職員が選ぶ心に残った映画

もうすぐ夏休み。みなさんはどんな計画を立てていますか？　ノープランという人は映画や本にどっぷり浸かる知的生活はいかが。本コーナーでは教職員が選んだ学生時代に観ておきたい、とっておきの映画を紹介します。

人の心の深淵を覗かせるファンタジー
『Dr.パルナサスの鏡』
（2009年・イギリス／テリーギリアム監督）

私にとって映画の原点は、高校・大学時代の思い出と重なる一連のアメリカン・ニューシネマ。これは、そんな雰囲気をどこかに感じさせる新作です。
主人公は、数世紀も前に不死の命を手に入れた老人、その代償は16歳になった娘を悪魔に引き渡すことでした。人間の心を映し出す不思議な鏡の中の世界。現実と鏡の世界を行き来するうちに、キャラクターの輪郭が次第に明らかになり、物語は核心へと近づいて行きます。童話のような雰囲気の中で、人の心の深淵を覗かせるファンタジー。先の見えないスリリングなストーリー展開も魅力です。

国文学科教授　高倉一紀

元CIA工作員が見た政治の裏側
『シリアナ（SYRIANA）』
（2005年・アメリカ／スティーブン・ギャガン監督）

この映画は石油利権をめぐる複雑で恐ろしい現実を描いた映画です。題名の「シリアナ」は「アメリカの利益にかなう中東の新しい国」という意味で、元CIA工作員の書いた『CIAは何をしていた？』（ロバート・ベア著、佐々田雅子訳、新潮社、2003年）が原作です。この映画でCIA工作員を演じたジョージ・クルーニーがアカデミー賞助演男優賞を受賞しました。石油をめぐる国際政治の現実について深く考えるよいきっかけとなることでしょう。

社会福祉学科准教授　山中　優

SFアドベンチャーの最高傑作
『バック・トゥ・ザ・フューチャー』
（1985年・アメリカ／ロバートゼメキス監督）

公開から25年たった今でも大人気のSFアドベンチャーの最高傑作です。ロックとペプシが大好きな高校生マーティは親友の科学者ドクの発明したタイムマシンで1985年から1955年にタイムスリップしてしまいます。そこで若き日の母親がマーティに一目惚れしてしまったから、さあ大変！この映画は３部作となっており、パート２では2015年の未来にパート３では1885年の西部開拓時代にタイムスリップします。何度観ても飽きないドキドキわくわくする映画です。ぜひ３作ともご覧ください。

コミュニケーション学科准教授　川村一代

自然と人間の共存とは
『もののけ姫』
（1997年・日本／宮崎駿監督）

「森を犯した人間がわが牙を逃れようとする」ということをテーマにした宮崎駿脚本・監督のアニメ映画「もののけ姫」133分をお薦めする。封切られた当時、まだ幼児としての感動だった人、幼くて見ていない人、特に本学教育学部や文学部の国文・国史で教師をめざす人、神職など神道教化にたずさわる予定者、人を見て法を説くという語がある。子ども達は何に感動するのか、成長した現在の目で、この映画を、この夏、見てみよう。

神道学科教授　白山芳太郎

リレーエッセイ　**私の学生時代**

恩師への恩返し

コミュニケーション学科　教授　**山田やす子**
南山大学大学院修了

名古屋の南山大学で学部、大学院と十年間を過ごした。その後皇學館大学に勤め、早いもので四半世紀が過ぎた。皇學館をはじめて訪れたとき、坂を上って校内に入っていく感じが、なんとなく母校を思わせた。

南山では文学部独語学独文学科で学んだ。十年間を振り返ってみると、一番の思い出は先生方とのふれあいである。当時独文の先生方はほとんど大学のすぐ近くにある宿舎に住んでおられた。どの先生もとても気さくで、当たり前のように学生たちを自宅に招いてくださった。ドイツ人の先生方も例外ではなかった。はじめて先生のお宅に伺ったのは、入学したての頃、指導教員の先生の自宅に招かれたときであった。それまでそんなことはめったに経験がなかったので少々面食らったが、十五、六名の学生が先生のお宅へ押しかけた。奥様の手作りのケーキと飲み物、ゆったりとしたおしゃべり。教室や先生方の研究室とは異なる雰囲気を、少し緊張しつつ楽しんだのを今でも懐かしく思い出す。

学部のゼミ、大学院を通しての恩師の家には始終伺い、院の仲間たちと長野県の別荘にまでお邪魔している。

そんなアットホームな学生時代を過ごした私が、学生を指導する立場になった。教養科の教員だったときにもたまに学生を自宅に招くことはあった。その後コミュニケーション学科ができ、ゼミ生を持つようになってからはこれが恒例行事になった。ゼミ生は卒業までに少なくとも一度は決して上手とは言えない私の手料理を食べる。

一昨年から本学は中国河南省からの留学生を迎えている。全員実に優秀な学生たちである。彼女たちを見ていると、三年生の秋から四年生の夏にかけて西ドイツのザールラント州立大学へ留学したときのことを思い出す。そのときの不安や戸惑い、うれしかったこと、楽しかったことを思い出しつつ、今留学生たちと接している。

どれもこれも学生時代に先生方に教えられ、お世話になったことに対する恩返しである。

平成二十二年度　萼の会　総会及び役員会報告

去る五月十五日に平成二十二年度萼の会役員会、翌十六日に総会が開催されましたので、その概要を報告いたします。

◉萼の会役員会

十五日、午後二時より伊勢シティホテルにおいて、萼の会会長並びに伴学長の挨拶により役員会が開催され、全国からお集まりいただいた役員三十一名、参与でもある本学教員及び職員二十一名で、総会に諮るべき議事について審議されました。

◉萼の会総会

十六日、伊勢学舎記念講堂において、文学部会員百六十名、社会福祉学部会員四十二名、教育学部会員百名、現代日本社会学部会員十九名及び大学教職員九十一名の出席のもと、午前九時三十分より総会が開催されました。議事について次のとおり審議され、盛会のうち閉会となりました。

【議　事】

㈠平成二十一年度行事業報告及び決算について

㈡平成二十二年度役員選出(案)について

㈢平成二十二年度行事業計画（案）及び予算（案）について

㈣その他、大学の現況報告など

議事㈠については原案どおり承認され、㈡は後載の方々が新役員に選任されました。㈢は平成二十二年度行事業計画及び予算が承認されました。㈣については特になし。

平成二十二年度　萼の会役員名簿

役名	氏名	学生名	学科	学年
会長	市川重夫	真衣	教育	四
副会長	山元義清	千晃	神道	四
	小田谷司	美緒	社福	三
	北島清博	慈人	神道	三
会計監査	大松信久	万穂	教育	四
	中村誠	侑衣	教育	二

若い時は何度でもやり直しがきく。目標を持って頑張って

鈴木（森井）千賀さん（43歳）教育学科　平成２年卒

経　理　二軒茶屋餅角屋本店

――現在はどんな仕事をされていますか。　【聞き手】澤友美

大学卒業後は小学校に６年間勤めました。結婚を機に退職し、嫁ぎ先の家業（二軒茶屋餅）を手伝っています。現在は地ビールレストラン「麦酒蔵」で経理や接客をしています。

――鈴木さんにとって働くこととは。

元気をもらえるもの、でしょうか。もちろん大変なこともありますが、その場その場で楽しむ気持ちを持ち、注意されたことを素直に受け止めることによって輝ける場になるんだと思います。

――学生にメッセージをお願いします。

まずは就いた仕事を一生懸命好きになるように努力してください。努力して好きになれればそれでいいし、好きになれなかったら軌道修正すればいい。若いんだから、何度でもやり直せます。とにかく目標を持って頑張ってほしいですね。

お客様の〝ありがとう〟という言葉がやる気の素

出口裕子さん（32歳）国文学科　平成13年卒

銀行員　百五銀行筋向橋支店

――担当されている業務について教えてください。　【聞き手】澤友美

窓口業務に加え、医療保険や投資信託などの営業、入社２年目から５年目の社員教育も任されています。

――どんな時にやりがいを感じますか。

やっぱり、お客様の「ありがとう」という声が嬉しいですね。以前、資産の残し方について相談を受けた時、終身年金保険への加入をお勧めしたんです。その時お客様が見せたホッとした顔が印象的で……。残りの人生をお客様が安心して暮らせる、そのことに自分が関われたことが嬉しかったです。

――学生時代にやっておいた方がいいと思うことはありますか。

社会人になるとなかなか長期の休みがとれません。旅行や好きな勉強など、時間に余裕がある学生のうちにトライしておいた方がいいと思います。

ためにならない経験はない

宇河雅之さん（43歳）国史学科　平成２年卒

学芸員　三重県立博物館

――学芸員の仕事について教えてください。　【聞き手】澤友美

学芸員の仕事は非常に多岐に亘ります。現在、私が主に取り組んでいるのは平成26年に完成予定の新県立博物館の準備、移動展示の開催、広報、収蔵資料の管理などです。

――苦労する点は？

例えば展示について、自分が伝えたいことを上手く表現できるか、ですね。パネルの文章一つにしても、専門性にこだわっていてはダメ。常に読み手の立場で考えないと……。

――やりがいを感じる部分は？

自分が企画した展示を見て、お客様が喜ばれたり、笑顔があると嬉しいですね。その場にいなくても後で「そういえば、あの展示で見たな」と思い出してもらえれば幸せですね。

――学生へのメッセージを一言お願いします。

多分、ためにならない経験はありません。むしろ、多彩な体験こそが自分の得手不得手を知るきっかけとなり、自分に適した仕事を得る近道になると思います。迷ったら、苦労する方を選べと聞いたことがありますが、私も、この年齢になってようやくその意味がわかってきたように思いますから。

可能か不可能か、ではなく、本当になりたいものを探して

三遊亭栄楽（川上昭光）さん（49歳）国文学科　昭和59年卒

落語家

――落語家をめざしたきっかけは？　【聞き手】伊藤絵里香

高校生だったある日、テレビで５代目円楽を見たんです。すごいと感激し、大学３年の時に上野の寄席へアポなしで押しかけ、運良く円楽師匠に会うことができました。「弟子にしてくれますか？」と聞くと、電話番号をくれました。卒業後、正式に弟子入りしました。

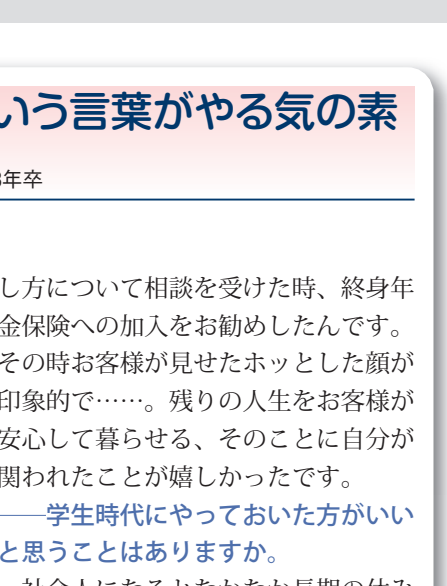
――噺家としてのやりがいや醍醐味は？

ひとりで何役も演じるため、いろんな人生を味わえることですね。それに、落語家は演出家でありプロデューサーであり監督でもある。そんな多彩な面が魅力です。

――学生へのメッセージをお願いします。

学生の時に僕が「落語家になりたい」と話すと、友人や周りからは「できるわけないやん」と言われました。でも、そこで無理だと思わず、何とかしようと決心することが大切です。可能か不可能かで選択肢を絞らず、本当になりたいものを探してください。

緊急告知　この秋、三遊亭栄楽さんが東海道沿い10カ所で勧進落語会開催をめざします。10月25日から11月13日までの20日間。ぜひ足を運んでください。



インタビューを通しての感想

澤　友美さん　教育学科３年

内定がもらえるのかどうかもわからない今の時期は不安ばかり。そんな私にとって、「まずは就いた仕事を一生懸命好きになるよう、努力すること」という鈴木さんの言葉が印象に残りました。どの方も楽しそうに仕事をしていますが、その陰で、努力と苦労を惜しんでないように思います。目標を持って、それに向かって頑張ることが大事だと改めて感じました。

伊藤　綾さん　国文学科３年

どの方も自分の仕事に誇りを持ち、〝天職〟と言っていたことが印象的でした。就職は自己の可能性を最大限に広げられることだと教えていただき、私も妥協することなく就活に打ち込もうと決心しました。この夏休みにもう一度自分自身を見つめ直し、本格的に始まる就活に備えようと思います。インタビューを通して意欲を高めることができ、良い経験になりました。

伊藤絵里香さん　国文学科３年

社会人の方に仕事への姿勢や想いなどを聞くことができるチャンスはそうそうないので、とても貴重な経験でした。意識を高く持ち努力している先輩方の言葉には力強さがあり、圧倒されると同時に憧れを感じました。私も先輩方のように自分が輝ける仕事を見つけたい、そして、それに向けて頑張ろうというモチベーションをもらいました。

クローズアップゼミ　研究室探訪8

国文学科講師
松下道信ゼミ

先人の跡をたどる

本年６月９日の夕刻、小雨の降る中、私は魯迅の墓の前にいた。

魯迅は今、上海市の北に位置する魯迅公園の中に眠る。中国文学史上、大きな足跡を残した魯迅はかつて日本に留学しており、日本人ともゆかりが深い。河南大学・河南師範大学の編入試験の帰途、上海での飛行機乗り換えのわずかな時間を利用し、私は国文学科の先生方とともに魯迅公園を訪れた。目的は公園内の魯迅記念館である。

記念館は、東北大学留学当時の恩師・藤野厳九郎が別れに際して魯迅に手向けた「惜別」と書かれた色紙や、留学中のノートといった身の回りのものを織り交ぜつつ彼の生涯が分かりやすく示され、見ごたえある展示となっている。また公園内の魯迅の墓前には、誰がささげたのか、白い夾竹桃の花が一枚たむけられていたのが印象的であった。

魯迅公園はいわゆる旧日本租界の中にあり、魯迅もまた一時期このあたりに居を構えていた。われわれは魯迅と親交の厚かった内山完造の営んでいた内山書店跡を訪ねた後、魯迅の故居を探してしばらく歩き回った。結局、建物を見つけることはできなかったものの、往時を偲ばせる古い街並みの中を歩き、いささかなりとも当時の空気を味わうことができた。

漢文学ゼミは中国の文献を扱う。そこでは日中両国にまたがり活動した人々に触れ、また彼らのさまざまな思いを理解することが必要となる。本来、研究室の紹介というのが本文に課せられた要求であるが、ここでは魯迅という先人の跡をたどったこの小文をもってその一端に代えることとしたい。

学生責任編集ページ　学生記者募集！……興味のある人は総務課まで！　KODAISM

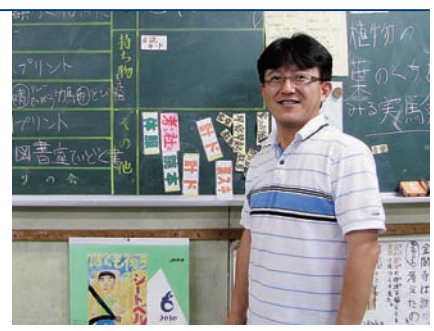
見たい！知りたい！先輩のお仕事拝見

就職は人生における大きなターニングポイント。シュウカツ真っ只中の４年生はもちろん、１・２・３年生のみなさんも早めの準備に越したことはありません。そこで、今回は学生記者が社会へ出て活躍されている卒業生を突撃訪問！仕事のやりがいや醍醐味、厳しさについて語っていただきました。

これはというものを見つけたら、とことん取り組んで

山村浩芳さん（47歳）国文学科　昭和61年卒

小学校教諭　志摩市立船越小学校



――現在の小学校では何年生を担当されているんですか？　【聞き手】伊藤綾

船越小学校は５年目。現在は６年生15人を教えています。

――もともと小学校教諭が希望だったのですか？

いえ、ここの小学校にくるまではずっと中学校勤務でした。校務や部活に追われる日々の中で、もっとゆっくり子どもたちと向き合いたいと考え、小学校へ移ってきました。

――教師の仕事の醍醐味は？

伸び盛りの人間を相手にできる、そして、自分の経験を伝えられることが喜びですね。保護者とのコミュニケーションも楽しいですし。たとえば、私が中学校勤務時代に立ち上げた「卓楽会」はもう17年ほど続いています。現役の生徒だけでなく卒業生や保護者、町の住民が集う一大コミュニティなんですよ。

――学生へのアドバイスをお願いします。

これはというものを見つけたら、とことん取り組んでほしい。やれるときにやっておかないと、後悔すると思います。

仕事を通して、〝責任感のある大人〟に成長できる

上村（中村）静香さん（38歳）教育学科　平成７年卒

公務員　伊勢市役所観光企画課

――現在、どんな業務に就いているのですか？　【聞き手】伊藤絵里香

市民の皆さまと一緒に伊勢の町を観光面から元気にする仕事に取り組んでいます。外宮前の新名物「御饌丼（みけどん）」も、誕生のきっかけは、やる気があればどなたでも参加できる「伊勢活プロ」から生まれたアイデアなんですよ。

――上村さんにとって「仕事」とは？

自分を成長させてくれるものですね。どんな仕事でも、壁や問題にぶちあたることがあります。でも、乗り越えるうちにレベルアップしている自分に気付くはず。失敗が何度も許されない厳しい世界だからこそ、責任感のある大人になることができるんだと思います。

――就活中の学生に一言。

希望先に落ちると、気にしすぎてしまうのでは。でも、実際は人間性を否定しているわけではなく、相性や方向性が違っただけという場合も多い。一喜一憂せず、自分を信じて活動してください。

自分の目と耳と足で情報をつかんで

鍛野優一さん（31歳）社会福祉学科　平成14年卒

生活相談員・ケアマネージャー　南勢カトリック特別養護老人ホーム

――現在の仕事に就いたきっかけは？　【聞き手】伊藤絵里香

人の役に立ちたいという想いがあり、福祉職を志しました。就職するにあたってはボランティアや実習などでいくつかの施設を見てまわって、最終的に老人介護の道を選びました。おばあちゃんっ子でしたからね。

――福祉職には大変そうなイメージがありますが。

残念ながら、福祉は大変な面ばかりが取り上げられます。でも、それ以上のものが返ってくるのは確か。精神的に得られるものが大きい仕事だと思います。

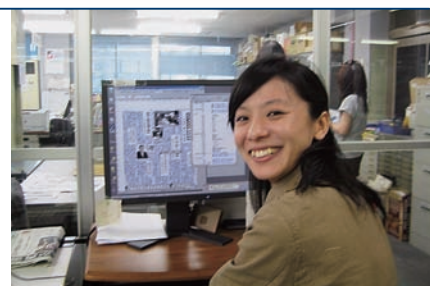
――学生時代にやっておくべきことはありますか？

気になる職業があるなら、自分の足で調べ、実際に見て感じて判断することが大切。実際、僕がこの施設にしようと決めたのは、訪問した時に利用者やスタッフの表情が明るかったから。現場を見ておくことがとても重要だと思います。

早い段階から就職を意識して行動を

木村有里さん（26歳）国文学科　平成19年卒

編集・整理部　伊勢新聞



――「整理部」とは何をする部署なんですか？　【聞き手】伊藤綾

見出しを考えたり、どの場所にどういう記事を配置するか、写真の大きさなども含め全体のレイアウトを考える仕事です。

――どんなところにやりがいを感じますか。

伝わりやすい見出しや、納得のいくレイアウトが組めた時です。この記事は何が言いたいのか「一言」で言ってみて、インパクトも大切にしながら考えますね。

――逆に難しい点、苦労するところは？

何が要点かを捉えることが難しい。それに、４年目ともなると「ああしてみよう」と余裕や意欲が出てくるのですが、それが慣れとミスにつながってしまうこともありますね。先入観を持って読んでしまって、意図を読み違えたり…。

――学生へのメッセージを聞かせてください。

早いうちから就職に関心を持っておくと、普段の生活の中で気がついたり思いついたりすることが増えます。まだまだ先の話…などと思わず、意識だけでも早めに持っておいた方がいいと思いますよ。

自分のオリジナリティを大切に本物の世界に飛び込んで

吉川竜実さん（46歳）国史学科　昭和62年卒

教学科長　伊勢神宮神宮文庫

――業務内容について教えてください。　【聞き手】伊藤綾

現在は神主と神宮文庫の主幹業務を行っています。神宮文庫には約30万冊の本があり、その３分の２は和書です。それらを整理する図書館業務も行っています。

――吉川さんにとって、働くこととは何ですか？

聖なることであり、生きがいですね。神ですら労働することを考えると、その下で働ける私たちはとても幸せな存在だと思います。

――学生時代のエピソードを教えてください。

宗教的知識をしっかり身に付けることに精を出しました。地方の神社へは、約40社ほど奉仕に行きましたよ。倭姫宮には毎朝欠かさずお参りしていました。父親が神棚に手を合わせている姿を子どもの頃から見て育ちましたから、神を敬う尊さや、宗教的なことに自然と関心を持ったんでしょうね。

――最近の学生を見て思うことは？

自分のオリジナリティを出して、本物の世界に飛び込む勇気を持つことが大切。就職難という言葉に負けず、自分の持ち味を見つめ直してください。

皇學館高等学校

平成23年度 生徒募集要項

募集定員	345名（予定）
入学資格	中学卒業者および平成23年３月卒業見込みの者
出願期間	**平成23年１月11日㈫～１月17日㈪　午前９時～午後３時まで** ※15日㈯は正午まで。ただし16日㈰は受け付けません。
出願手続	●**入学願書**（本校所定の用紙） ●**調査書**（本校所定の用紙） ●**受検料 12,000円** ※本校所定の用紙（郵便振替）にて、必ずゆうちょ銀行窓口で、お納めください。
入学検査	【日　時】２月１日㈫ 10時までに入場完了 【教　科】国語・数学・英語 【検査場】皇學館高等学校
合格発表	２月８日㈫に、合格通知を中学校と本人宛に発送します。 （電話によるお問い合わせには、お答えできません）
入学手続	**２月15日㈫午後３時までに、入学金45,000円**を納入してください。 （所定の用紙にて、必ず銀行窓口でお納めください）
学費	【入学時の経費】　教育充実費　200,000円 【入学後の経費】（月額）　授業料　21,500円　【参考】9,900円を国が負担（H22年度） 教育充実費　10,000円 その他　4,400円
特典	❶入学後、学業・性行ともに優秀な生徒に対しては授業料免除の制度があります。 ❷皇學館大学への附属高校特別推薦枠などの特典があります。
推薦および特別奨学生について	❶「特別進学コース」「進学コース」それぞれのコースに推薦制度があります。 ❷学習成績優秀と認められる生徒、および体育・文化面における技能の優秀者に対して、特別奨学生としての特典が与えられます。

皇高NEWS

上位入賞者が続出

県総体、東海総体など

五月二十八日から三十日にかけて三重県高校総体（県総体）が実施され、熱戦が繰り広げられた。本校の代表選手は各競技で非常に優秀な成績を収めた。全国大会出場の栄誉を勝ち取った生徒諸君は囲碁部門の澤山君を加え、次の通りである。本校代表としてまた地域代表としての健闘を期待したい。

- ●男子バレーボール
- ●剣道（男子個人）
  阪井　耀君（三年六組）
- ●弓道（男子個人）
  岩脇　優君（三年三組）
- ●囲碁（個人）
  澤山　隼也君（二年七組）

新役員が選出される

第四十八期 校友会

七月七日、第四十八期校友会本部役員の選挙が実施された。例年は体育館で実施される立会演説会だが、今年は体育館の耐震工事のため各教室に立候補者の写真と所信表明を掲示。校内放送で立候補者の演説を聴くという異例の形となった。投票の結果、校友会総務委員長には二年生の中谷賢司君が、副総務委員長には同じく二年生の橋本匠君、荒木志帆さんがそれぞれ信任された。中谷君は「学校づくりに私たち生徒が関わっているんだという実感と達成感をみんなに味わってもらえるような校友会を目指したい。皆がよりよい学校生活を送れるよう頑張ります」と抱負を語った。

総務委員長
中谷賢司君

副総務委員長
橋本匠君

副総務委員長
荒木志帆さん

10名が教育実習生として来校

教育実習

六月七日から三、四週間にわたり教育実習が実施された。今年度は国語二名、社会三名、数学一名、理科二名、英語二名の計十名と大人数での実習となった。

最初のうちは緊張していた実習生も明るい生徒たちの笑顔に徐々に肩の力も抜けていった。休み時間はもちろん放課後は部活動などにも参加し積極的に生徒とコミュニケーションを取り、距離を縮めていった。「先生、先生」と生徒から呼び止められるシーンも多く見られるようになり、三週目には見違えるほどに、授業はスムーズに進行した。研究授業が近づくと実習生から今まで学んだことを活かし納得のいくものに仕上げたいという意気込みを感じることができた。

最後の終礼では各クラスで実習生への感謝のサプライズプレゼントが用意されていた。実習生は、生徒の「ありがとうございました」の言葉に実習期間の終わりを実感し、別れを惜しんでいた。

最後の終礼後の記念写真

六種目で入賞

第六十回 伊勢市中学校春季連合陸上競技大会

六月十日、炎天下の中、県営陸上競技場において伊勢市内の十三の中学校が集い連合陸上競技大会が開催された。学校同士でエールを送り合うなど、大変盛り上がる大会となった。

選手だけでなく応援する側の活躍も目立った今大会。本校では四月の下旬から、十七名の選手と校友会本部役員を中心とした六十四名の応援リーダーがそれぞれの練習を重ねてきた。今年は〝遠くからでも美しく見える応援〟をテーマに新たなスタイルも加えた。当日はバックスタンドでの応援となり、広い芝生の上に美しく整列していた。声量も例年よりも大きく、選手の方まで届いていた。

選手は日々の練習の成果と応援生徒の声援を受けて六種目入賞を果たし、共通男子百十メートルハードルにおいては一位に輝いた。

閉会式後、選手が応援場所まで駆けつけ、活躍を讃えあった。選手、応援生徒全員で写真撮影をし、一日を締めくくった。

選手と応援生徒の集合写真

男子共通3000m

皇中NEWS

皇學館中学校

平成23年度 生徒募集要項

	A日程	B日程
募集人員	約60名	約10名
入学資格	平成23年３月小学校卒業見込みの者（男女共学）	
出願書類	●**入学志願票**（本校所定の用紙・受験票を含みます） ●**受験料 12,000円**（支払金受領証をもって領収書に代えます）	
出願期間	**平成22年12月13日㈪～27日㈪** **午前９時～午後３時** ※18日㈯は正午まで。19日㈰・23日㈷・25日㈯・26日㈰は受付ができません。	**平成23年１月11日㈫～15日㈯** **午前９時～午後３時** ※15日㈯は正午まで。
出願方法	【持参する場合】出願書類を取り揃え、所定の封筒に入れて学校事務室へ持参。 【郵送する場合】出願書類と受験票返信用封筒（**住所・氏名の記入、返信切手（書留速達代770円）の貼付が必要**）を所定の封筒に入れ、必ず書留速達で郵送。 ➡ 〒516-8588 伊勢市楠部町138　皇學館中学校事務室　TEL 0596-23-1398	
試験日時	**平成23年１月８日㈯　午前９時30分より**	**平成23年１月16日㈰　午前９時30分より**
試験教科	国語・算数・作文（各50分・100点）	国語・算数（各50分・100点）
合否発表	各家庭に郵送（電話によるお問い合わせにはお答えできません）	
	平成23年１月11日㈫	平成23年１月19日㈬
合格者登校日	平成23年１月15日㈯　午前10時より本校にて	平成23年１月22日㈯　午前10時より本校にて
入学手続	入学金 45,000円 ＋ 教育充実費（入学時）150,000円 ＝ 計 **195,000円**	
	１月14日㈮午後３時までに振り込んでください。	**１月21日㈮午後３時までに**振り込んでください。
学費	●授業料 **21,500円**　●教育充実費 **10,000円** ●その他 **4,300円**（保護者会費・後援会費・校友会費・図書費ほか） ※入学試験の成績優秀者は選考の上、特別奨学生として授業料免除の特典が与えられます。	
特別奨学生制度	人物優秀で、次のいずれかの基準を満たす者から選考し、入学金および授業料の納入を免除します（入学を確約する者に限ります）。 ❶入学試験の成績が特に優秀な者 ❷小学校長または学習塾長から学業成績が特に優秀であると推薦され、入学試験の成績が優秀な者	

平成23年度 学校説明会

日　時　**平成22年９月26日㈰**
午前９時30分より（11時30分終了）
場　所　**本校セミナーホール および各教室**

●学校説明　●入試説明　●体験授業（社会・理科・数学）

平成21年度 収支決算報告

学校法人皇學館の平成21年度決算は、平成22年５月21日㈮開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を公表します。

なお、公式ホームページ（http://www.kogakkan-u.ac.jp/）の学校法人皇學館IR 情報公開「事業報告平成21年度」にて、学生生徒数・入学生数・進路（就職）状況及び法人の事業実績、決算の詳細説明を公開しておりますので、併せてご覧ください。

平成21年度収支決算書は、以下のとおりです。

1 資金収支計算書

この計算書は、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度の教育研究活動及びその活動に付随する全ての資金の動きと内容を明らかにすることを目的としています。

資金収支計算書（法人全体）

平成21年４月１日から平成22年３月31日　（単位：千円）

科目	予算	決算	差異
●収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,748,388	3,702,069	46,318
手数料収入	69,552	75,235	△5,683
寄付金収入	79,560	169,727	△90,167
補助金収入	756,516	758,232	△1,716
資産運用収入	61,049	59,111	1,937
資産売却収入	50,030	50,030	0
事業収入	49,796	43,195	6,600
雑収入	384,516	391,136	△6,620
前受金収入	766,341	784,821	△18,480
その他の収入	1,582,099	1,623,764	△41,665
資金収入調整勘定	△1,063,681	△1,074,384	△10,703
当年度資金収入合計①	**6,484,166**	**6,582,936**	**△98,772**
前年度繰越支払資金	1,745,687	1,745,687	
収入の部合計	**8,229,854**	**8,328,627**	**△98,772**
●支出の部			
人件費支出	3,381,410	3,341,069	40,340
教育研究経費支出	990,814	923,980	66,833
管理経費支出	559,632	568,273	△8,641
借入金等利息支出	9,969	9,968	1
借入金等返済支出	68,750	68,750	0
施設関係支出	1,472,372	1,472,368	3
設備関係支出	127,704	128,133	△429
資産運用支出	1,134,769	1,149,918	△15,149
その他の支出	225,499	222,565	2,933
資金支出調整勘定	△124,749	△113,965	△10,783
当年度資金支出合計②	**7,846,170**	**7,771,059**	**75,111**
次年度繰越支払資金	383,682	557,562	△173,879
支出の部合計	**8,229,854**	**8,328,627**	**△98,772**
当年度資金収支差額 ①－②	**△1,362,004**	**△1,188,123**	**△173,883**

2 消費収支計算書

この計算書は、企業会計における損益計算書にあたるものであり、帰属収入（負債とならない収入）から基本金組入額（施設や設備などの取得にあてる額）を控除した消費収入と消費支出を比較して均衡状況を明らかにすることを目的としています。

消費収支計算書（法人全体）

平成21年４月１日から平成22年３月31日　（単位：千円）

科目	予算	決算	差異
●消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,748,388	3,702,069	46,318
手数料	69,552	75,235	△5,683
寄付金	87,060	174,976	△87,916
補助金	756,516	758,232	△1,716
資産運用収入	61,049	59,111	1,937
資産売却差額	22	22	0
事業収入	49,796	46,471	3,324
雑収入	384,516	391,173	△6,657
帰属収入合計①	**5,156,899**	**5,207,292**	**△50,393**
基本金組入額合計	△799,576	△867,970	68,393
消費収入の部合計②	**4,357,322**	**4,339,322**	**18,000**
●消費支出の部			
人件費	3,456,042	3,415,701	40,340
教育研究経費	1,451,634	1,369,382	82,251
管理経費	607,989	611,818	△3,829
借入金等利息	9,969	9,968	1
資産処分差額	53,997	61,204	△7,207
消費支出の部合計③	**5,579,631**	**5,468,074**	**111,556**
●収支差額の部			
当年度帰属収支差額 ①－③	**△422,732**	**△260,782**	
当年度消費支出超過額 ②－③	**1,222,308**	**1,128,752**	
前年度繰越消費支出超過額	**4,088,026**	**4,088,026**	
翌年度繰越消費支出超過額	**5,310,334**	**5,216,778**	

【注意】
●記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。
●貸借対照表の注記は省略しています。

3 貸借対照表

この計算書は、決算日における資産及び負債、基本金、消費収支差額の内容及び在り高を明示し、学校法人の財政状態を明らかにすることを目的としています。

貸借対照表

平成22年３月31日　（単位：千円）

科目	本年度末	前年度末	増減
●資産の部			
固定資産	**18,254,274**	**18,265,931**	**△11,656**
有形固定資産	**15,564,159**	**14,503,906**	**1,060,252**
土地	1,276,899	1,259,204	17,694
建物	9,578,881	9,912,992	△334,110
構築物	954,881	1,001,401	△46,520
教育研究用機器備品	352,551	355,683	△3,132
その他の機器備品	65,520	78,307	△12,786
図書	1,757,100	1,748,971	8,129
車輌	25,568	28,153	△2,584
建設仮勘定	1,552,754	119,192	1,433,562
その他の固定資産	**2,690,115**	**3,762,025**	**△1,071,909**
借地権	8,723	8,723	0
電話加入権	3,959	3,959	0
施設利用権	13,930	18,573	△4,643
有価証券	596	635,020	△634,424
敷金	5,450	5,180	270
差入保証金	4,960	4,960	0
預託金	10,000	10,000	0
長期貸付金	9,623	12,800	△3,176
退職金引当特定資産	998,430	820,556	177,873
施設維持引当特定資産	333,213	293,213	40,000
学生寮施設維持引当特定預金	122,930	102,528	20,401
百三十周年記念事業等引当特定資産	201,812	180,022	21,790
高校五十周年・中学三十五周年記念事業等引当特定預金	15,000	10,000	5,000
学園財政調整引当特定預金	197,446	197,446	0
施設設備拡充引当特定資産（第２号基本金）	700,000	1,395,000	△695,000
第３号基本金引当資産	64,040	64,040	0
流動資産	**2,656,222**	**2,928,134**	**△271,912**
現金預金	557,562	1,745,687	△1,188,124
補助活動支払資金	290,081	294,267	△4,186
研修旅行費等預り資産	110,223	103,777	6,445
未収入金	330,571	165,168	165,403
奨学金引当特定資産	32,393	25,699	6,693
販売用品	13,302	10,025	3,276
短期貸付金	2,641	2,029	611
有価証券	785,020	49,978	735,042
篠田学術振興基金引当特定資産	66,641	66,045	595
津田学術振興基金引当特定資産	317,769	315,453	2,315
教学振興基金引当特定資産	150,000	150,000	0
立替金	0	1	△1
前払金	14	0	14
資産の部合計	**20,910,497**	**21,194,066**	**△283,569**
●負債の部			
固定負債	**1,733,337**	**1,839,563**	**△106,226**
長期借入金	350,000	418,750	△68,750
退職給与引当金	1,073,062	998,430	74,632
長期未払金	310,275	422,383	△112,108
流動負債	**1,344,858**	**1,261,419**	**83,439**
短期借入金	68,750	68,750	0
未払金	226,073	218,879	7,194
前受金	784,821	743,813	41,008
預り金	265,213	229,976	35,236
負債の部合計	**3,078,196**	**3,100,983**	**△22,787**
●基本金の部			
第１号基本金	21,891,040	20,402,069	1,488,970
第２号基本金	700,000	1,395,000	△695,000
第３号基本金	64,040	64,040	0
第４号基本金	394,000	320,000	74,000
基本金の部合計	**23,049,080**	**22,181,109**	**867,970**
●消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	5,216,778	4,088,026	1,128,752
消費収支差額の部合計	**△5,216,778**	**△4,088,026**	**△1,128,752**
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	**20,910,497**	**21,194,066**	**△283,569**

寄付者芳名

◆◆創立一三〇周年・再興五十周年記念事業
◆皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業

学校法人皇學館の周年記念事業募金につきまして、ご協力いただいた方々に心より厚く御礼申し上げると同時に芳名を掲載させていただきます。掲載は六月三十日までの到着分とさせていただきます。

創立130周年・再興50周年記念事業寄付金進捗状況

平成22年６月30日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	634	776,847,000	765,177,000
館友	718	78,894,000	75,899,000
篤志家	44	31,835,000	31,715,000
萼の会	1,894	82,686,000	82,686,000
企業	104	62,285,000	60,945,000
本法人関係	255	58,222,000	57,937,000
合計	**3,649**	**1,090,769,000**	**1,074,359,000**

本法人関係
十五万円　佐野　真人様
十万円　浅井　誠司様
十万円　中井　良明様
二万円　子孫　康平様

企業
東京都
五万円　㈲龍村仁事務所様

篤志・その他
東京都
三万円　龍村　仁様

創立一三〇周年・再興五十周年記念事業

同窓会会員
三重県
四万円［一万円増額］　荒木　貢一様
山口県
一万円　中村　久生様
一万円　上田　久充様

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業

皇學館高等学校創立50周年・皇學館中学校創立35周年記念事業寄付金進捗状況

平成22年６月30日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	2	150,000	150,000
企業	40	4,090,000	4,000,000
一般（旧教職員・篤志家等）	15	425,000	425,000
同窓会会員	129	6,633,000	6,633,000
後援会賛助会員	54	910,000	910,000
本法人関係	125	3,685,000	3,635,000
合計	**365**	**15,893,000**	**15,753,000**

OB・OG訪問

先輩、お元気ですか

秦（はた）　昌弘（まさひろ）氏

四日市市立博物館　学芸員

神道学科第二期（昭和五十七年三月）卒◆多度大社権禰宜、四日市市教育委員会博物館準備室を経て現職。『丹羽文雄と田村泰次郎』、『田村泰次郎選集』などの三重県出身の近代作家研究により、平成二十年に三重県文化奨励賞を受賞。また、出身地の四日市で、縣神社宮司として神職でもある。

私が入学した神道学科は開設されて二年目でしたので、先生方は皇學館の「神道学」を、どのようにして打ち立てていこうかと試行錯誤されていました。学問というものは、確固として樹立しているものだと思っていただけに、新鮮な驚きを覚えました。

学問の深さ、広さとともに、そこには核となるものを見失うことなく、しかも柔軟でなければならないと、知らず知らずのうちに学んだと思います。

今、博物館で仕事を進めていく上で、そのことは判断の基準となっています。

また、博物館の特別展では、皇學館出身の学芸員ならではのものを求めてきました。公立博物館として、伊勢神宮を取り上げた最初の展覧会となった「神宝の美」展、本居宣長の全貌に迫った「21世紀の本居宣長」展などは、従来取り上げられることのなかったテーマでした。

私が現在、取り組んでいる四日市出身の近代文学者の研究では、関係するご家族のなかに、「皇學館」と縁（えにし）のある方がおられたことで信頼を得て、貴重な資料の調査にとどまらず、寄贈の申し出をいただきました。

幅広い日本文化を理解する上での要（かなめ）ともいえる「皇学」の学びを、皆さんとともに、さらに深めていきたいと思っています。

第1回 皇學館大学特別講座を開催

演題「武士道 ―日本人の強さについて」

右／熱弁をふるう管野覚明先生。左／武道系の学生をはじめ、幅広い層が集った講演会場。

本学では今年度から各界で活躍されている四名の方に客員教授に就任いただいた。その客員教授の方々に学生および一般市民を対象にお話しいただく特別講座を開催することとなった。七月一日に行われた記念すべき第一回は東京大学大学院人文社会系研究科教授で『神道の逆襲』や『武士道に学ぶ』などの著書を持つ管野覚明氏を講師に迎え、「武士道 ―日本人の強さについて」を演題に講義していただいた。

〝やさしくなければ強くなれない〟

講義の中で管野氏は武士の理想は「強さ」にあったと解説。戦術や武力など知識や肉体を鍛えることで得られる力だけでなく、徳や仁といった精神性も備えた総合力が求められていたと説明した。精神性の重要性については孟子の言葉である「惻隠の心(他人の苦しみを見過ごしにできない心)」を引用。「乳児が井戸に這い込みそうになっているのを見ると、皆驚いて助けようと動く。これを惻隠の心というが、ここで重要なことは、大きい(強い)者から小さい(弱い)者に向けられている愛情であること。つまり、思いやりを施すには、実行者にそれを担いきる強さが必要」と読み解いた。

そして、「イコールであることにこだわるのが〝道〟の特徴」と話し、武士道とは自分＝武士（理想の自分）となることを頑なにめざす道、いうなれば、強さを徹底して追求する彼らの価値観・道徳であると説いた。

現代にも通じる教育

参考にします、と田中さん。

面白かったと話す松平さん。

教育学科四年の松平春奈さんは書道や茶道などの習い事をしてきたことに触れ、「〝道〟についてそこまで深く考えたことがなかった。今日の講義を聞いて、心の有り様や性格が作品や所作と直結しているとわかった」と話していた。また、将来教員をめざしていることから、「道徳教育を中心として子どもに本当の心の強さ、思いやりを伝えていきたいと改めて思った」と抱負を語っていた。

同四年の田中章太郎さんは「武士道＝勝利至上主義だと勘違いしていた。〝やさしさと強さは一つという思想こそが武士道の真髄〟という講義を聞いて、現代にも通じる教育内容だと思った」と感想を話していた。

女子柔道部 初の全国大会出場！

創部以来、四十年目の快挙

六月二十六日に日本武道館で開催された全日本学生柔道優勝大会において、女子三人制に団体として出場することができた。創部以来四十年、強化クラブに指定されてから四年目にして初の快挙である。個人での出場は過去にも何度かあったが、日本武道館に「皇學館大学」の名前を見るのは初めての事であった。

女子柔道部は人数も少なく、日々の練習にも苦労してきたが、創意工夫し地道に鍛錬を積み重ねてきた成果である。胸に「皇」の文字が入った伝統の柔道着を着て、武道館と全国大会の雰囲気に圧倒された開会式を終え、初戦は九州大学。松本、北川、小宮が対戦し結果は二対一で勝利、初戦突破という目標を達成した。二回戦の相手は早稲田大学。瀧野、小宮、北川が対戦し結果は三対〇で敗北。今大会で三位になった強豪チームと戦えたことで自分達の実力を再認識できたことであろう。初めての全国大会は勝敗以外にも武道館の存在の大きさや雰囲気、全国の強豪チームの勝負に拘る気迫、選手を試合だけに集中させる学生サポーターのチームワークなどが体感できた。

これまで東海大会上位入賞というぼんやりした目標しか持っていなかった学生たちではあったが、今回を機に具体的な目標が定まり、自らが考え、練習にも積極的に取り組むようになったことが一番の収穫だと思う。

最後に全国大会出場に際し、ご協力いただいたOB、OGの皆様、学内外の講師の方々、強化指定クラブとしてバックアップしていただいた大学本部の方々に感謝を申し上げる。

柔道部部長　増井節郎
（コミュニケーション学科教授）

全国学生柔道大会出場者

文学部国文学科　四年　小宮　瑞希
教育学部教育学科　二年　瀧野　和美
〃　一年　北川ひとみ
〃　一年　松本　知浩

日本武道館での試合を前に緊張した面持ちの松本さん・瀧野さん・小宮さん・北川さん(前列左より)。

オープンキャンパスに三百七十名が来場

七月十八日、伊勢学舎でオープンキャンパスを開催した。六～八月にかけて月一回ずつ行われ、その二回目にあたる。当日は百二十名を超える学生のボランティアスタッフらが高校生と保護者を元気に出迎えた。例年通り「こころ小路ツアー」と題し、大学に〝旅〟をしにくるイメージで、学生らによる手作りの体験型プログラムと模擬授業を実施した。

学科ごとにプログラムを企画するなかで、教育学科は「先生になるには塾」を開講。教員へのプロセスや心構えなどを、教育実習を経験した在学生へのインタビューを交えて分かりやすく伝える内容で、高校生たちは熱心に聞き入っていた。熊野市から参加したという男子高校生は特別支援コースを目指しており、「教授や学生の生の姿に触れたことで、ぜひここで学びたくなった」と刺激を受けた様子。他にも記念館での「茶の湯体験」や、大学のランチと外宮前名物・御饌丼が味わえる「学食体験」、「キャンパスツアー」も盛況であった。スタッフとして関わった国文学科一年の阿谷勇さんは「準備は大変だったが、高校生が笑顔で帰ってくれて嬉しかった」と満足げ。高校生にもそれぞれに将来の大学生活をイメージするいい体験になったようだ。次回は八月二十一日㈯に開催予定。

学生スタッフはみなボランティア。120名が参加した。

芝博一さん、ご当選おめでとうございます

七月十一日に行われた第二十二回参議院議員通常選挙において、三重県選挙区から本学文学部国文学科八期卒業の芝博一さんが再選されました。心よりお祝い申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

8月

2カ月イベント情報

1㈰ 伊賀市文化フォーラム2010　伊賀上野交流研修センター
なぜ、あなたは運動をしてもダイエットに成功しないのか？ ―運動とダイエットの誤解―
◆片山靖富 教育学科助教
【コーディネーター】酒井研作 社会福祉学科助教

2㈪ 日中韓三国福祉文化の比較研究会　名張学舎
アジア的福祉文化の構造と課題に関する総合的研究 ◆韓国曉園大学校教授　関根英行 氏、帝塚山大学教授　岩井洋 氏、中国社会科学院研究員　趙剛 氏

週末あそび塾　名張学舎
マイカップを作ろう！ ◆伊賀焼「香山窯」　森里博信 氏

3㈫ 週末あそび塾　名張学舎
ペットボトルロケットを飛ばそう！
◆筒井琢磨 現代日本社会学科教授

7㈯ 史料編纂所 近世文書集中講座　伊勢学舎
近世文書 ◆上野秀治 国史学科教授

8㈰ 名張の地域文化を語る会　滋賀・蒲生野 他
日帰り参拝見学ツアー「お多賀さんと蒲生野」

伊賀市文化フォーラム2010　伊賀上野交流研修センター
若い女性のやせと次世代の健康
◆三重大学准教授　杉浦絹子 氏
【コーディネーター】酒井研作 社会福祉学科助教

21㈯ オープンキャンパス　伊勢学舎
こころ小路ツアー

月例文化講座　名張学舎
現代における支援の必要な人と教育保障
◆建部久美子 社会福祉学科准教授

22㈰ 伊賀市文化フォーラム2010　伊賀上野交流研修センター
食はこどもの心と体をつくる ―家庭での食育―
◆三重大学准教授　磯部由香 氏
【コーディネーター】酒井研作 社会福祉学科助教

全国館友大会　神宮会館
新時代の社会派ミステリー ◆作家　大門剛明 氏

9月

4㈯ 史料編纂所夏セミナー③　伊勢学舎
中世文書を読む ◆多田實道 国史学科講師

11㈯ 月例文化講座　伊勢学舎
式年遷宮の中絶と復興 ◆岡野友彦 国史学科教授

18㈯ 月例文化講座　名張学舎
〝幸福学〟へのいざない ◆山上賢一 社会福祉学科教授

22㈬ ちょっとちょっと講義　まちなか研究室事務室
家族と語れる！『となりのトトロ』の民俗学的見方
―トトロは妖怪か、お化けか―
◆板井正斉 社会福祉学科准教授

26㈰ あのつアカデミー　津市橋北公民館
倭姫命の伊勢巡行について ◆岡田登 国史学科教授

高校生英語スピーチコンテスト参加者募集！

文学部コミュニケーション学科では高校生を対象とした第11回高校生英語スピーチコンテストを開催いたします。６月下旬に各高校英語科主任の先生宛に申込用紙をお送りさせていただきますので、参加ご希望の方は８月20日までにコミュニケーション学科研究室（☎0596-22-6472）までご連絡ください。多数のご応募をお待ちしています。　【申込みは８月20日締め切り（予定）】

開催日時●平成22年10月24日(日) AM9:30～
開催場所●伊勢学舎４号館 431教室

イベントの時間・申込方法等のお問合せは各学舎まで
伊勢学舎☎0596・22・0201㈹　名張学舎☎0595・61・3351㈹

編集後記

◆酷暑の最中にお届けする学園報27号、いかがでしたでしょうか？ 今年はここ何年かの内で最も暑い夏のように感じます。連日、猛暑日・熱帯夜が続いておりますが、皆様どうぞご自愛ください。◆今回の四・五面・学生編集ページでは、「仕事」をテーマに各方面で活躍する卒業生の方々へインタビューを行いました。紙面ではごく僅かなスペースでしかご紹介できませんが、皆さん予定の時間を大幅に越えて、熱っぽく語っていただきました。まさに「天職」とは何か？ということを考えさせられたひと時でした。【総務課】